

鼎談

# 浄土宗開宗850年を 迎えるにあたって

～いのち、しあわせ、お念佛とともに生きる

浄土門主・総本山知恩院門跡 伊藤 唯眞

浄土宗宗務総長 川中 光教

シンガー・ソングライター、小説家 さだまさし



来年に浄土宗開宗850年を迎えるにあたって、浄土門主・知恩院門跡の伊藤唯眞、下と川中光教・浄土宗宗務総長、シンガー・ソングライターで小説家のさだまさしさんが、8月7日に浄土宗総本山知恩院で、開宗850年に思いを馳せながら、いのちや幸せについて語り合いました。鼎談の要旨を採録しました。

(文責・編集部)

## ●法然上人の教えから紡ぎ出した「みんな、幸せになれるよ」

——さださんは法然上人800年大遠忌記念の「法然共生イメージソング」として、2009(平成21)年に『いのちの理由』を発表。今や人々の心を揺さぶる歌として親しまれています。歌に込めたメッセージ、その反響はいかがでしたか。

さだまさし氏 僕も若いときに、何のために生まれてきたのかと悩み、哲学や宗教について学んだ時期がありました。そのときに、哲学は「こうでなければいけない」といったように厳格で、自分を律するのに厳しい力が必要なのに対し、宗教は言ってみれば、哲学に『情』を加えたような、情けを感じた。人間という生き物を前提として、生きる者を意識して生まれたように思います。中でも、法然上人は、僕の感覚では、大乘の心と言いますか、それを端的に示されたのが「みんな、幸せになれるよ」とのまっすぐな教えですね。みんな、極楽浄土に往生できますよ、と。この呼びかけが、平安から鎌倉への時代の転換期に、どれほど多くの人を救ったろうか、と強く思います。法然上人のまっすぐな教えが、どんな人にも伝わるように、こ